

修士論文概要

FPE (Fear of Positive Evaluation) が社交不安傾向に及ぼす影響
—パス解析による FPE、FNE (Fear of Negative Evaluation)、自己受容を含めたモデルの構築—

齋藤 広恵

1. 問題と目的

社交不安症 (Social Anxiety Disorder、以下 SAD とする) は、多くの人は思春期早期に発症し、20 歳を超えて SAD を発症する人は一般的には少ない (古賀, 2022)。また、SAD が慢性化した場合を ICF に当てはめて考えると、SAD であるという状態は、心身機能の低下だけではなく、「活動 (仕事上の業務が進行できない、電車に乗れない等)」、「参加 (就職困難、ひきこもり等)」レベルを意味し、生活機能が低下していることを示す (古賀, 2022)。

したがって、SAD はパーソナリティが形成される時期に発症し、自然に治癒されるものではなく、早期に介入する臨床的意義が高い課題である。

Weeks & Howell (2012) は、社交不安を呈する者はネガティブ、およびポジティブな感情価に基づく評価に対する恐れを有するとする、「The Bivalent Fear of Evaluation (BFOE) model (以下、BFOE モデル)」を提唱した (森石・山下・前田・萩島・嶋田, 2018)。BFOE モデルとは、他者からの否定的評価、および肯定的評価のいずれに対しても恐れを有する SAD に特徴的な認知的要素である (秋山・永作・笹川・蓑崎ら, 2018)。具体的に、FPE (Fear of Positive Evaluation) とともに、FNE (Fear of Negative Evaluation) がそれぞれ機能することで、どちらか一方の評価に対する恐れが強い人よりも重篤な社交不安症状を有することが明らかになっている (大川・城月, 2017)。

FPE は社交不安を理解するうえで重要な認知的特徴であるが、わが国では FPE に関する研究が 2015 年時点では行われていなかった (前田ら, 2015)。

したがって、本研究の目的は、①FNE のみならず、FPE が SAD に及ぼす影響を検討すること、②FNE と FPE の違い、及び、FNE と FPE を媒介する概念を発見し、FPE 特性を有する人物について検討すること、③パス解析より、FNE (否定的な評価に対する恐れ)、FPE (肯定的な評価に対する恐れ)、FPE と関連する、また、FNE と FPE を媒介する概念から、SAD のモデルを構築すること、の 3 つである。

2. 研究 1

(1) 方法

短縮版 FNE 尺度、FPE 日本語版尺度、DPSOS 日本語版尺度、CSR 尺度、SPI 尺度、SIAS 尺度より質問紙を作成し、大学生 91 名を対象に質問紙調査を実施した。分析では、「パス解析」を行い、FNE のみならず、FPE が SAD (SPI, SIAS) に及ぼす影響を検討した。

(2) 結果と考察

FNE、FPE とともに SAD (SPI, SIAS) に及ぼす影響が同等 (約.40) であった。そして、FNE から FPE、SAD (SPI, SIAS)、FPE から FNE、SAD (SPI, SIAS) というパス解析でも、両者のパス解析の値に変化はみられず、前者の FNE から FPE を媒介した SAD への間接効果も、後者の FPE から FNE を媒介した SAD への間接効果も約.16 であった。

したがって、FPE が FNE と同等に SAD に影響を及ぼすと考えられる。

3. 研究 2

(1) 方法

短縮版 FNE 尺度、FPE 日本語版尺度と自己受容尺度より質問紙を作成し、大学生 87 名を対象に質問紙調査を実施した。分析では、FNE と自己受容、FPE と自己受容の関連を偏相関

分析で検討した。

(2) 結果と考察

FNEは自己受容と関連がなく、FPEが高いほど、自己受容が低くなるということが明らかになった。

したがって、「FPEが高い人」とは、現実自己と理想自己の乖離が大きく、現実自己への不満、理想自己をみてもらいたいという思いから、このような結果が生じたと考えられる。

4. 研究3

(1) 図1の仮説

研究1、研究2より、FNEとFPEには関係があるが、自己受容を媒介した効果も存在すると考えられる。よって、直接効果としてのFNE→FPEと、間接効果としてのFNE→自己受容→FPEの2種類のパスを想定することができ、相対的に間接効果の方が大きいと考えられる。

以上をまとめたのが図1である。

(2) 方法

短縮版FNE尺度、FPE日本語版尺度、自己受容尺度と調査1で使用したSPI尺度、SIAS尺度より質問紙を作成し、大学生93名を対象に質問紙調査を実施した。パス解析より、FNEとFPEの媒介変数として自己受容を含めて、SADのモデルを構築した。

(2) 結果と考察

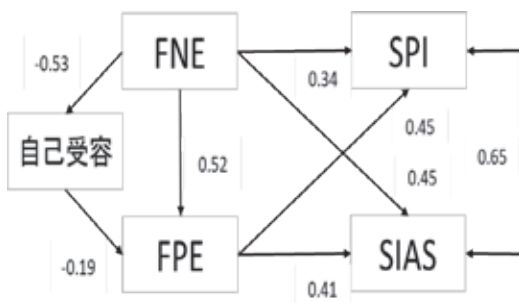


図1 FNE、FPE、自己受容、SPI、SIASのパス解析

図1に示されるように、FNEと同様にFPEからSAD(SPI,SIAS)に影響を及ぼし

ていることが明らかとなった。そして、FNEからFPEへの値が.52となり、FNEがFPEへ影響を与えていること、FNEから自己受容を媒介したFPEへの間接効果は約.01となり、自己受容のFPEへの影響は微々たるものであることが示唆された。したがって、「自己受容」が特にFPEの影響要因であると断言することはできず、仮説とは異なる結果となった。こうした予想と外れた結果となった理由には、特に「自己受容尺度」の内容が自分の測りたい現実自己と理想自己の乖離を反映できなかった可能性があったと考えられる。

5. 考察

研究1から3により、FPEはFNEのみならず、SADに影響を及ぼす要因であることが明らかとなった。その一方で、先行研究ではFNEとFPE双方の高さがSADに重篤な影響が生じるということが述べられていたが、研究1の間接効果と研究3より、このことについてはFNEとFPEが単独でSADに影響を及ぼしているのではないかと考えられる。こう考察した背景には、各調査の対象者で、FNEのみが高い者(約20%)、FPEのみが高い者(約20%)、FNEとFPEの双方が高い者(約40%)が、存在した事実があるためだ。また、「FPEのみが高い者」は、「自己受容」の結果(FPEが自己受容と負の関係にあること)も兼ねて、評価者の褒める対象と、自分が褒められたい対象(ほめの対象)が異なることに対して敏感に反応してしまう特性を持っているのではないかと考察する。

6. 主要引用文献

古賀なな子(2022). 社交不安症者の人的資源に着目した臨床心理学的支援に関する文献研究 九州大学心理学研究,23,45-52.

大川翔・城月健太郎(2017). 社交不安症におけるポジティブな情報に対する認知バイアス研究の現状 武蔵野大学心理臨床センター紀要,17,29-36